

量子コンピューティングと次世代AI

—量子コンピューティング技術の向上は次世代AIの成長を支える—

次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式



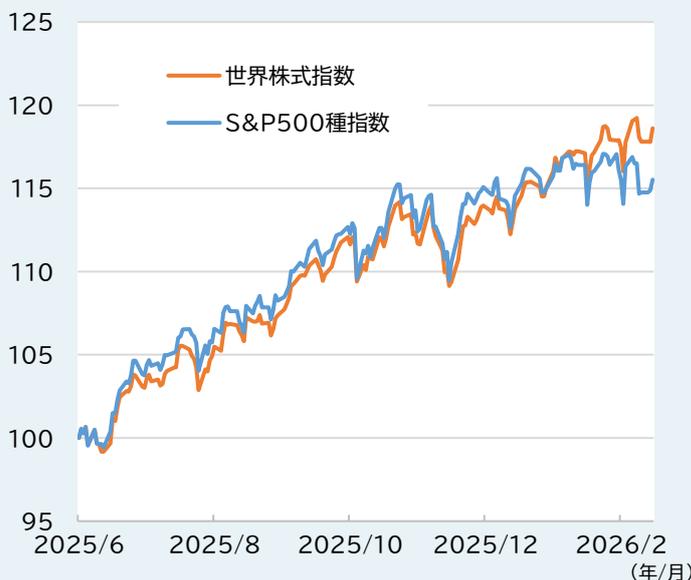
- ▶ 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ▶ 本レポートでは、当ファンドの足元の運用状況についてご紹介します。

足元の投資環境 (2026年1月31日時点)

1月のグローバル株式市場は堅調に推移し、世界株式指数は円ベースで約1%の上昇となりました。米国経済の力強さは2026年に入っても継続しており、1月のISM景況指数では、サービス業が底堅く推移しているほか、製造業も3年以上にわたる低迷局面を経た後、回復の兆しが見られました。利下げ局面の継続や拡張的な財政政策は、今後も米国経済の成長の下支えになると見られます。

一方、AI分野は難しい局面となりました。主な逆風は、ソフトウェア・セクター全体に広がった大幅な調整であり、AIによるディスラプション(破壊的イノベーション)への強い警戒感が背景にあります。円ベースのMSCI ACWIソフトウェア指数は月間で約13%下落しました。こうした懸念は、Anthropic社のClaude Opus 4.5(2025年11月発表)に代表されるAIコーディング能力の飛躍的進化を契機として強まっており、参入障壁の低下によってソフトウェア企業の競争優位性が脅かされるのではないかと、という投資家の不安を招きました。その結果、勝者・敗者を区別しない無差別的な売り圧力が生じました。

図表1 世界株式指数とS&P500種指数の推移
(期間:2025/6/9~2026/2/18、日次)



※世界株式指数:MSCI ACWI Index
※2025年6月9日(当ファンド設定日)を100として指数化(米ドルベース、配当込み)

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

当ファンドの運用状況

1月の基準価額は2.5%下落しました。AIインフラ部分はプラス寄与となった一方、AIイノベーター部分はソフトウェア関連銘柄を中心にマイナスに影響しました。

足元、ソフトウェア分野はセンチメントが極めて弱いものの、ソフトウェアは業務フローの中核を担い、データやセキュリティと深く結びついています。AI活用が進むことで、むしろ競争優位性は強化されると考えています。今回の無差別的な売りは、AIに脅かされる企業ではなく、AIを活用して成長できる企業にとって投資機会を生んでいると考えています。その意味で今回の下落は、今後、企業の価値を再評価し、業績や収益化の進捗に基づく業績相場・選別相場へ移行する重要なきっかけになると見えています。

図表2 当ファンドの基準価額の推移
(期間:2025/6/9~2026/2/18、日次)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後

次世代AIと量子コンピューター

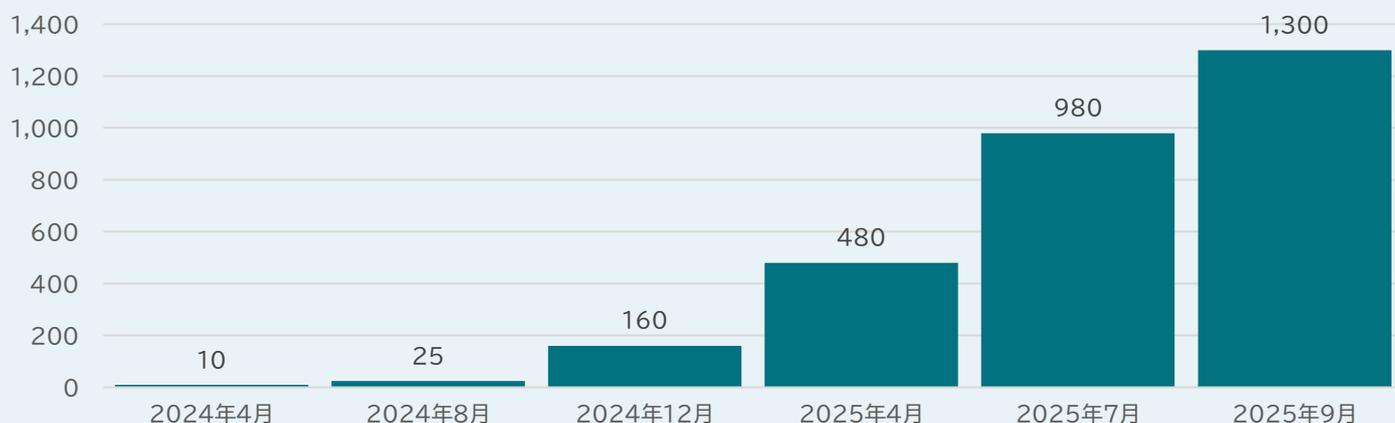
足元で、量子コンピューターに対する関心が高まっています。その背景には、生成AIをはじめとする次世代AI技術の進化によって、計算需要がこれまでにない水準まで高まっていることがあります。量子コンピューティングが進展し、経済的に実用可能な段階に到達すれば、次世代AIをより強力にし、その重要性をますます高める役割を果たすと考えられます。つまり、量子コンピューターは次世代AIファンドの長期的なリターン創出に寄与し得る、多くの有望な技術革新の一つであると考えられます。

■ 次世代AIの進展に伴う、量子コンピューティングへの関心の高まり

最近の量子コンピューティングへの関心の高まりは、次世代AIの急速な進展を背景とした動きと考えられます。生成AIをはじめとする次世代AIの普及により、計算量・処理速度・効率に対する要求が大きく高まっています。この急拡大する計算需要に対応するため、大手テック企業が長年続けてきた量子コンピューティング研究に改めて注目が集まっています。Google、Microsoft、IBM、Amazonといった大手テック企業による量子コンピューターの研究は、まだ研究段階であるものの、理論中心だった技術が、実験的に使える段階に近づいてきています。このように、量子コンピューティングへの関心は、次世代AIの進化がもたらした計算能力の高度化ニーズの延長線上にある動きと言えます。

図表3 AIによる計算需要の急拡大 - Googleの月次トークン使用量

(単位:兆トークン)



(出所)アルファベット社公表データをもとにアクサ・インベストメント・マネジャーズが作成

■ 次世代AIと量子コンピューティングの関係における運用チームの考え

量子コンピューターは、次世代AIの計算能力の限界を押し広げる将来の補完技術と考えられます。将来的に量子コンピューターが実用化されれば、AIの計算能力や最適化を支える技術として活用され、次世代AIの重要性を高めると見えています。

現在の専門家の見方では、QPU(量子プロセッシングユニット)は、GPU、CPUそして今後数年で開発される新しいタイプのAIチップと並んで、データセンター内で併用される可能性が高いとされています。これにより、次世代AI向け計算能力全体の性能・効率がさらに向上し、AI適用領域は一段と拡大する可能性があります。従って、量子コンピューティングは長期的な次世代AIの進化を支える有望な技術革新の一つになり得ると考えています。

NEXT GENERATION

現在の量子R&Dの動向

現時点では量子分野が株価に影響を与えている企業は当ポートフォリオに含まれていないとみられますが、次世代AIインフラを担う主要企業の多くは、将来の計算基盤を見据えて量子研究開発を進めています。以下は、量子分野における研究開発やインフラ面で取り組みを行っている次世代AIインフラ企業です。

● **アルファベット**

量子研究およびハードウェア分野の主要プレイヤー。Quantum AI部門が「Willow」チップを開発し、10年以上にわたり最先端の研究を主導。Google Cloud経由で量子計算へのアクセスも提供している。

● **マイクロソフト**

Azure Quantumを通じて、量子ハードウェアへのアクセスを提供。クラウド基盤と量子研究を組み合わせた取り組みを推進している。

● **エヌビディア**

量子研究においてGPUやソフトウェアが活用されており、AIと量子双方の計算基盤を支える技術開発を進めている。

● **AMD**

スタートアップとの量子プロジェクトにおける研究パートナー。GPU技術が量子研究の支援に活用。

今後の見通しと運用方針

次世代AIを取り巻く環境は、急速に進化を続けています。次世代AIは多くの産業に応用が広がる“汎用技術”と捉えることができるため、今後はインフラ企業に加え、AIを活用して新たな価値を生み出すイノベーター企業にも収益機会が広がっていくと見ています。その中で、次世代AIの社会実装を支える中小型企业の役割が急速に高まっています。次世代AIにおいて、不可欠なサービスを提供できる中小型企业は、今後も市場成長の恩恵を受けると考えられます。当ファンドでは、市場環境に合わせてインフラ企業とイノベーター企業の両方にバランスよく投資しながら、競争優位性を持ち、成長が期待される企業に投資を続けて参ります。

サービスナウ (米国:情報技術)

同社は、次世代AIを中核に企業の業務プロセスを自律的に最適化・実行する企業向けプラットフォームを提供するグローバル企業です。

IT、人事、経理、カスタマーサポートなど企業活動の中枢となる業務フローを一元管理し、AIが状況を判断しながら業務を自動で進行させる「エージェントAI」を実装している点が特徴です。同社は2025年12月にサイバーセキュリティの米アームスの買収を発表しました。これにより顧客デジタル資産の可視化、脆弱性の特定、リスクへの対応が可能となり、今後エージェントAIやフィジカルAIが拡大する中で重要かつ複雑化する課題への対応力の強化が期待されます。

図表4 サービスナウの株価推移

(期間:2020/12/31~2026/2/18、日次)



※2020年12月31日を100として指数化(米ドルベース、配当込み)

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

* 上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

販売会社一覧 2026年2月27日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
三津井証券株式会社	北陸財務局長(金商)第14号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項



投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。
 - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.2925%（税抜1.175%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担：純資産総額×年率1.826%（税抜1.66%）程度
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。